令和6年度

加茂名小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○基礎・基本を身に付け，自己実現をめざす子供の育成

○主体的に取り組み，豊かに表現する子供の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 大宮　佳世子	委員　校長：奥村兆男　教頭：阿部恭典　教務主任：丸岡敬明 1年主任：富田志帆　2年主任：田村理恵　3年主任：川﨑亮 4年主任：山本幸穂　5年主任：後藤浩之　6年主任：藤井由紀 特別支援学級主任：佐藤彩香 研修主任：藤井　由紀　人権教育主事：後藤浩之

校長

奥村　兆男

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等，様々な機会を捉え，取組状況の把握を行う。

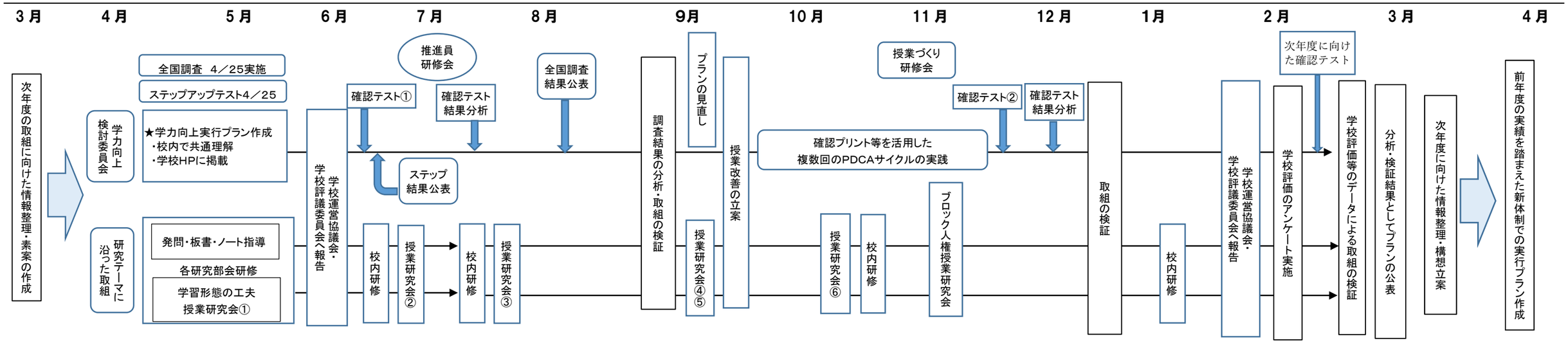
（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○朝の活動を学力向上のために活用し，漢字，計算等の基礎的な知識・技能の習得率は向上してきている。 ●学習したことを日常生活の中で活用できていないため，既習事項を時間が経つと忘れてしまい，定着が不十分である。	・漢字，計算等の基礎的な知識・技能の学年目標習得率を向上することができる。 ・既習事項や問題解決の過程で習得した語彙や表現方法を用いて，自分の考えや思いを表現することができる。 ・進んで読書をしたり，調べ学習に図書室を利用したりすることで，語彙力や問題解決力をつける。	・漢字や計算の確認テストを定期的に実施したり，タブレットのミライシードを活用して反復練習や遡り学習を行ったりする。また，認知トレーニングを取り入れ，学習の下地づくりを行う。 ・朝活の読書タイムを利用して，学級ごとの図書室利用を呼びかけることで家庭での週末読書を推進し，読書の習慣化を図る。	・漢字や計算の確認テストを1学期末に行った結果，ほとんどの学年で目標習得率を達成することができた。2学期も引き続き定期テストを実施し，来学期の授業に生かせるようにする。 ・図書委員会によるイベントの効果もあり，図書室に足を運ぶ子どもたちが一時的ではあるが増加した。	・漢字や計算のミニテスト等を行い，基礎的な知識の定着を行った。その結果，学年目標を達成できた学年が多かった。しかし，漢字の読み書きの定着はまだ難しい学年もある。 ・調べ学習では，タブレットや学級文庫のみの利用で終わってしまい，図書室を利用する学年が少なかった。	・時間が経つと既習内容を忘れてしまうため，漢字や計算の遡り学習をタブレットのミライシードを利用して定期的に行えるようにする。また，基礎学力確認テストの再検討を行う。 ・調べ学習等，クラス全体で図書室を利用する機会を増やす。調べ学習に必要な図書の充実を図る。

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○ペアやグループなど多様な学習形態での伝え合い活動を通して，自分の考えを伝えようとする意識が育ってきている。 ●必要な情報を選んだり，友達の意見と自分の意見を比較検討したりして，自分の考えを再構築させるまでには育っていない。	・内容を整理しながら文章を読んだり話を聞いたりして，感想や自分の考えをもつことができる。 ・必要な情報を選んだり，友達の考えを聞いたりして，自分の考えを広げたり比べたりして自分なりに表現することができる。	・メモや付箋，ホワイトボードを活用し，自分の考えたことを書きとめられるようにする。 ・ペアやグループなど多様な学習形態やタブレットを活用した学習活動を取り入れたり，「なぜ」「どうして」などの発問を行うことで，自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。	・グループ活動などの多様な学習形態を行うクラスが数多く見られる。意見交換を行うことにより，自分の考えを広げることができつつあるが，書くことで意見をまとめることはまだ不十分である。	・ペアやグループでの学習形態で，ホワイトボードを活用し，意見の共有をしたり，まとめたりする活動を多く取り入れた学年が多かった。 ・国語や総合的な学習等で，情報を選び，自分で表現する活動ができた。	・引き続き多様な学習形態を工夫し，自分の考えを友達と話し合える機会を多く設定する。振り返りの時間を確保し，友達の意見と比較検討できたり，自分の考えを再構築できたりするような書き出しを提示する。また，話し方や聞き方のコツを提示する。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○提示された課題には真面目に取り組むことができる。また，興味をもつ課題に対して，主体的に取り組む児童が増えてきた。 ●個人差が大きく，手助けが必要な児童が多い。また，自分で計画を立てて課題を解決する力が不十分である。	・新しいことに興味をもったり，自分の課題を見つけたりして，主体的に学習に取り組むことができる。 ・自主学習の内容を自分で決めて，主体的に取り組むことができる。	・子供たちが楽しみながら学習できる授業の研究・実践に取り組む。 ・ヒントカードを活用することで，自ら学習に取り組むことができるようにする。 ・自主学習の取り組み方を例示することで，主体的に学習に取り組むことができるようにする。	・九九やローマ字のヒントカードは利用しているクラスが多いが，他のヒントカードについては利用が少ない。 ・自主学習強化週間と家庭学習時間強化週間の実施を行い，ほとんどの学級で目標達成者が数多くいた。	・ヒントカードの有効的な利用があまりできなかった学年が多かった。 ・自主学習強化週間や家庭学習強化週間の目標達成者が昨年よりも増加した学年が多かった。自主学習の内容については，今後検討が必要。	・ヒントカードの見直しを行ったり，リスト化をしたりすることで，もっと効果的に利用できるようにする。 ・自主学習のノート紹介を行ったり，自主学習の例を提示したりすることで，自分で課題設定ができるようにする。

令和6年度　学力向上ロードマップ